

女性交流センターでは、女性の様々な問題に関する相談を実施しています。

(場所: 市民会館3階)

女性問題相談

毎週火曜日から金曜日

午後1時から午後4時(祝日・年末年始除く)

電話 または 面接での相談

予約は必要ありません

女性専門相談 (専門カウンセラー対応)

偶数月(第3金曜日)と 奇数月(第1・第3金曜日)

午後1時から午後4時(一人50分)

面接相談で予約が必要です。託児も行います。

12月16日

1月6日
20日

2月17日

3月3日
17日

お問い合わせ・申し込み 赤穂市役所 市民対話課 43-6812

赤穂市女性交流センター 43-7800

FAX 43-6810 MAIL jinken@city.ako.lg.jp

「男女共同参画週間(6月23日～6月29日)」に

図書館と女性交流センターで特集展示をしました

「男だから」「女だから」といった性別役割意識にとらわれず、個性と多様性を尊重し、自身の可能性を信じて誰もが生きがいを感じられる社会を実現していきましょう！！



女性交流センターには、男女共同参画等に関する図書・行政資料をそろえ、誰でも自由に閲覧できる情報図書コーナーがあり、本の貸し出しも行っています。また、活動や交流の場として利用できる会議室がありますので、ぜひご利用下さい。

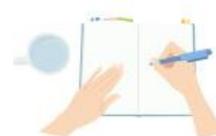


おすすめの一冊

燕は戻ってこない 桐野夏生 集英社刊

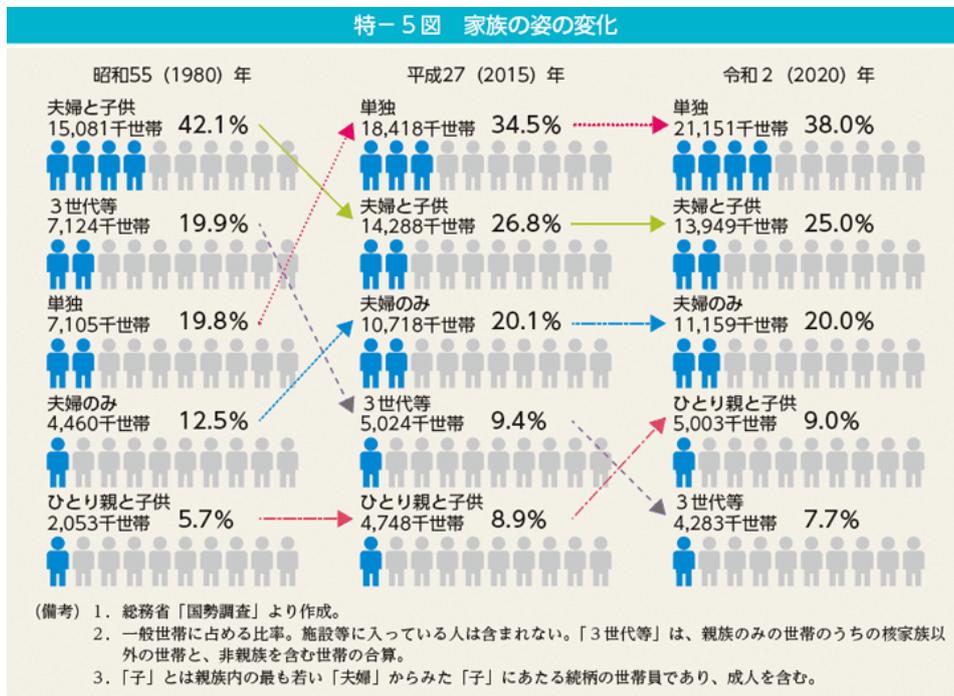


主人公のリキは29歳女性。北海道で介護の仕事についていましたが辞めて、憧れの東京に。病院事務の仕事に就きますが非正規雇用のため生活は困窮を極めていました。同じような境遇の同僚テルから「いい副収入になる」と卵子提供の話を受けます。リキは、ためらいながらもアメリカの生殖医療専門クリニック「プランテ」の日本支部に卵子提供の話聞きに行きます。しかし、国内では認められていない〈代理母出産〉を持ち掛けられます。リキ自身の状況が、卵子提供より、多くの収入になる代理母出産の条件に該当しているのです...



『令和4年版男女共同参画白書(内閣府)』より

下の図は「家族の姿の変化」を表しています。



昭和55年時点では、全世帯の6割以上を「夫婦と子供世帯(42.1%)」と「3世代等(19.9%)」の家族が占めていましたが、令和2年時点では、前者は25.0%に、後者は7.7%に低下しています。

一方、「単独」世帯の割合が38.0%と、昭和55年時点の19.8%と比較して2倍近くに増加しています。家族の姿が変化しているにもかかわらず、男女間の賃金格差や働き方等の慣行、人々の

意識、様々な政策や制度等が、依然として戦後の高度成長期、昭和の時代のままだということが指摘されています。

令和4年版男女共同参画白書は男女共同参画局のHPからも見ることができます。

発行/赤穂市市民部市民対話課(☎43-6812 FAX 43-6810)・女性交流センター(☎43-7800)